九州短期大学共創プラットフォーム

令和6年度

自己点検評価報告書

令和7年3月 31 日

はじめに

西九州大学短期大学部・長崎短期大学・長崎女子短期大学の3校は、令和6年度に文部科学省（日本私立学校振興・共済事業団）「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援」【メニュー2：複数大学等連携】（事業名：「Higher Education For All」短期大学の教育機能の共同化・高度化の取組み～短期大学の経営改革のための複数短期大学等による連携事業～）に選定（1月17日）された。これを受けて、本事業の「九州短期大学共創プラットフォーム」の構築を通じた経営改革の取組みについて、令和6年度の自己点検評価を行うものです。

九州短期大学共創プラットフォーム
統括委員会
西九州大学短期大学部
学長 福元 裕二
長崎短期大学
学長 安部 恵美子
長崎女子短期大学
学長 橋本 剛

本報告書について

本事業では、次のとおり各年度の目標を設定し、それに基づいた実施計画を策定している。令和 6 年度の目標は「共創プラットフォームの基盤構築と共同活動の開始」であり、令和 7 年 1 月 17 日の選定結果の通知以降、共創プラットフォームの基盤構築に向けて急ピッチで作業を進めている。

選定された大学等については、令和 7 年度から進捗状況の確認が毎年度行われ、4 年目（令和 9 年度）に中間評価が実施される予定である。本報告書では、この基盤構築のために具体的に必要な初動事項について自己点検評価を行う。

令和6年度　　共創プラットフォームの基盤構築と共同活動を開始する。

令和7年度　　共創プラットフォームの運用開始と共通化を推進する。

令和8年度　　共創プラットフォーム（各校履修モデル）の学生受入れを開始する。

令和9年度　　教育・運営の高度化と持続可能な運営体制を確立する。

令和 10 年度　事業最終年度として、事業成果の評価と改善、継続的発展に向けた展開を進める。

推進委員会

西九州大学短期大学部	平田孝治
西九州大学（西九州大学・短期大学部副学長）	上野景三
長崎短期大学	中野明人
長崎短期大学	岡﨑 寛
長崎女子短期大学	橋本 剛

自己点検評価について

グループ全体計画に記載される令和6年度計画において、各部門が担当する計画の実施状況について点検評価を実施する。この際、実施運営に必要な具体的な実施計画(取組み事項等)について、全体計画書に記載される次の事項及び達成目標（全体計画書の抜粋）を参考にして、現状を点検し評価を行う。根拠資料等の詳細については、掲載を割愛する。

全体計画書（抜粋）

(2)連携による機能の共同化・高度化に係る計画

(2－1)学校運営面における取組計画

ア. 事務機能の共同化

イ. 物品等の共同調達

ウ. 施設・設備の共同利用

エ. システムの共同運用

オ. FD・SD の共同実施

(2－2)教学面における取組計画

ア 連携した教育の提供

イ 教学管理体制

(3)連携事業による経営効率化への寄与

1. 物品やサービスの共同調達による経費削減

2. 施設設備の共同利用による設備投資の最適化

3. 教員・職員の相互交流と専門性の活用による人的リソースの有効活用と専門性の向上

達成目標

①経営効率化指標（ⅰ）	「人的コスト比率」	人的コスト削減率
①経営効率化指標（ⅱ）	「物品調達比率」	物品等調達削減率
①経営効率化指標（ⅲ）	「施設設備費比率」	施設設備費削減率
①経営効率化指標（ⅳ）	「費用対効果」	費用対効果向上率
②独自指標（定量指標ⅰ）	「教育成果の向上」	教育成果向上率
②独自指標（定量指標ⅱ）	「地域連携」	連携事業増加率
③独自指標（定性指標ⅰ）	「教育プログラムの充実度」	内部評価と外部評価の総合
③独自指標（定性指標ⅱ）	「地域社会への貢献度」	地域連携プロジェクトとフィードバック評価の総合

グループ全体計画書(抜粋)
令和6年度　目標
共創プラットフォームの基盤構築と共同活動を開始する。
実施計画
【共創プラットフォームの設立】 統括委員会、推進委員会及び各部会を設置し、委員選出と役割分担等を決定する。事務局の準備として、各校の事務機能を調査し、統合あるいは統一に向けた具体的な共通項目を見出して、共通事務管理とプロセスの構築を計画する。 【各部会作業の開始】 ・カレッジパートナーシッププログラム（共有科目群）の設計： 各校からの科目提供、インターカレッジ・カリキュラム（履修モデル）の設計、シラバス等の共有化に向けた統一化作業を計画する。 ・共同調達の開始： 一般消耗品や教材等物品の共同調達を初期段階として開始し、標準化していく。 ・施設設備の共同利用： 各校の施設設備の共同利用リストを作成する。 ・地域連携： 地域企業や自治体との必要な連携協定の締結、連携大学との接続に関する覚書等の締結を進める。 ・この他に、開始に必要とする取決めや実施、具体的計画の作成を行う。

統括委員会 自己点検	評価(S/A/B/C/D)
【総評】　A 令和8年度の履修モデル学生の受入れを達成目標とし、各部会で準備を進めている。各部会の取組みに関する計画表は十分とはいえないが、令和6年度目標においては、令和7年度からの学生募集の実現に向けた準備が概ね進められていると評価できる。一方で、各校の各種情報の集約が遅れているため、部会での取組みが停滞している状況も見受けられる。また、経費等についても早急に取り決めていく必要がある。特に、共創プラットフォームの基盤としては、関係教職員のエンゲージメントをいかに高めるか、規程の整備や情報共有の方策などを十分に考慮していく必要がある。	当年度計画の実施について S: 達成（100%） 目標をおよそ達成しており、期待以上の成果を得ている。 A: 達成（80%以上） 目標をおよそ達成している。 B: 概ね達成（70%以上） 目標を概ね達成しているが、一部に改善を必要とする。 C: 一部達成（50%以上） 目標を一部達成しているが、課題が残され改善が求められる。 D：未達成（50%未満） 早急な対応を必要とする。

西九州大学短期大学部（学内連携状況）	点検	評価
☑ 事業申請時の要件整備。 ☑ 推進委員会・各部会メンバーの確定 ☑ 学内委員会、学内部会・事務局での取扱い。 ☑ 各部門での実務担当者の配置。 ☑ 情報共有と実施運営の理解。 ☑ 学内規程等整備の検討への着手。	今年度は、初動として PF 事務局・推進委員が中心となり事業を牽引している。本学の次年度アクションプログラムに、本事業計画を組み込んだ。今年度の取組み事項は達成されていると考えるが、本学の特色に磨きをかけ、魅力創出につなげるよう取り組む必要がある。代表校として本事業を主導していく責任がある。実務担当者の配置はまだ十分とはいえず、限られた人員のなか、縦割り業務にならないよう学内での情報共有と理解を促進し、またスピード感をもって運営の効率化を図っていく必要がある。	A

長崎短期大学（学内連携状況）	点検	評価
☑ 事業申請時の要件整備。 ☑ 推進委員会・各部会メンバーの確定 ☑ 学内委員会、学内部会等での取扱い。 ☑ 各部門での実務担当者の配置。 ☑ 情報共有と実施運営の理解。 ☑ 学内規程等整備の検討への着手。	申請時は、事務局を中心に要件整備を行い、3 短大の合意形成を実現することができた。本学は、副責任校として、責任校である西九州大学短期大学部を支え、長崎女子短期大学とともに、本事業を積極的に推進すべく、学内での意思統一を行った。 各委員会や部会においては、少人数であるため、工夫が必要であり、学内の委員会等との調整が必要である。 経営改革面では、法人との協議の上、学内のさらなる努力と工夫が求められる。教育の魅力を高めることで、経営改革が実現するよう学生募集面の取組を強化していく。	B

長崎女子短期大学（学内連携状況）	点検	評価
☑ 事業申請時の要件整備。 ☑ 推進委員会・各部会メンバーの確定。 ☑ 情報共有と実施運営の理解。 ☑ 学内委員会、学内部会等での取扱い。 ☑ 各部門での実務担当者の配置。 ☐ 学内規程等整備の検討への着手。	今年度は、中心的役割を果たしていた教授が長期入院となり、学長が代替する変則的な形態で事業を推進した。学校法人の中期計画に本事業計画を組み込み、次年度事業計画にも記載した。今年度の取組み事項はある程度達成されていると考えるが、本学の注力している分野を連携の中で活かせるよう努力していく必要がある。	B

推進委員会（事務局含） 実施状況	点検	評価
☑ 事業申請時の要件整備。 ☑ 統括委員会議題の整理、並びに調整会議の開催 ☑ 共創 PF のキックオフ（2月12日記者発表） □ PF諸規程の整備。 ☑ 初動での部会牽引、7年度からの募集広報に向けた各部会運営の促進。 □ 部会別計画表の集約 ☑ アドバイザー兼コーディネーター契約に係る調整。 ☑ 学習管理システム導入に係る調整。 ☑ HP導入に係る調整。	事業初動として各部会を牽引している。基盤整備や経費を要する優先順位が高い事項を中心に取り組んだ。しかし、会議の日程調整が難しく、また運営上必要な規程等の整備も遅れている。学習管理システムや HP 導入、各種必要な取決めについては途上にある。今後、事務局・メンバーとの緊密な連携を図り、早急に取り決めていく必要がある。また、進捗状況を適宜確認し、課題を解決する体制の整備が必要である。	A

財務調整部会実施状況	点検	評価
☑ 事業申請時の要件整備と今後の検討への着手。 ☑ 各種経営効率化指標の具体的検討への着手。 ☑ 拠出金、財務帳票の提案 ☐ ①経営効率化指標（ⅱ）の算定方法の取り決め。 ①経営効率化指標（ⅲ）の算定方法の取り決め。 （指標算定法は次年度より着手。）	申請時要件の整備に当たっている。申し合わせがなされた効率化指標の具体的事項について検討を進めるものとなった。一般消耗品の共同調達を開始し、各校の施設設備の共同利用リストを作成した。今後、指標達成に向けて、より共同調達・利用リストを充足させていく。また、本事業全体の予算計画立てにおいては部会との連携が必要である。	A

教学システム部会 実施状況	点検	評価
☑ 管理部門 PC 等導入に係る調整。 ☑ 学習管理システムの導入に係る確認 ☑ 共有科目群（CPP）の集約（一覧作成） ☑ CPP のコンセプト素案の作成 □ 各校の履修モデル（IC）の素案の着手 ☑ 各校教務担当者・諸規程整備の確認 ②独自指標（定量指標ⅰ）の算定方法の取り決め。 ③独自指標（定性指標ⅰ）の算定方法の取り決め。 （指標算定法は次年度より着手。）	管理部門に PC 等導入を調整中である。学習管理システムの導入について確認を行い、手続きを進めている。CPP の科目集約から、コンセプト素案を作成したが、途上の段階である。そのため IC 案作成や募集広報を遅らせている。各校の実務担当者を明らかにし、諸規定整備を進めていくことについて申合せた。	B

人的リソース部会　実施状況	点検	評価
☑ アドバイザー兼コーディネーター契約。 ☐ 3校推進員・部会メンバー等の共有化の検討。 ☐ 3校教職員情報（専門、担当等）の集約。 ☐ 基幹教員・クロスアポイントメント等の3校規程等の集約。 ☐ 財務調整部会との検討（アウトソーシング等）。 ☐ 教職員共有化の運用法の検討。 ①経営効率化指標（ⅰ）の算定方法の取り決め。 （指標算定法は次年度より着手。）	現在、人的リソースの効果的活用を検討するために、3 校からの資料収集に当たっている。財務調整部会をはじめ、各部会と連携して具体的な検討を進めていきたい。	D

学生支援部会　実施状況	点検	評価
☑ FDSD 研修会の実施。 ☑ ニーズ調査アンケートの作成・アンケート実施 ☑ リーフレット作成 ①経営効率化指標（ⅳ）の算定方法の取り決め。 （指標算定法は次年度より着手。）	・西九州大学短期大学部川邉教授による 3 短大合同 FDSD を実施した。 ・年度内にニーズ調査に取り掛かるため、まずは高校生向けの A4 リーフレットを作成し、3 月のオープンキャンパスで実施し、回収後分析予定。 ・高校（教員）・企業・自治体向けのリーフレット作成に向け業者先生を終え、次年度早々に作成に取り掛かる。	A

地域連携部会　実施状況	点検	評価
☑ 3 短大の地域活動についての情報交換と収集。 ☑ 次年度 4 月実施予定の行事（日韓親善交流）の案内。 ☑ リーフレット作成 ②独自指標（定量指標ⅱ）の算定方法の取り決め。 ③独自指標（定性指標ⅰ）の算定方法の取り決め。 ③独自指標（定性指標ⅱ）の算定方法の取り決め。 （指標算定法は次年度より着手。）	・キックオフ会議では、これまでも西九州大学短大部と行ってきた交流行事を継続することを確認。 ・3 短大の交流行事を集約し、次年度内に可能なところから実施する。 ・リーフレット作成については、学生支援部会と協力して作成する。	B

（参考） 令和7年2月12日 統括委員会 議題（資料抜粋）

1.初動について
2.プラットフォーム名称の確定について
　本事業で取り扱う用語の統一
3.共同実施事項について
　3-① 提出書類等について
　3-② 計画書の記載事項について（年次計画・実施内容等）
　3-③ 共同出資の予算按分について（システム、リーフレットほか）
　3-④ 部会等の実施事項・計画について
　【推進委員会】
　　1.システム設計の着手、学び研（桑木氏）への相談
　　2.共創 PF 管理システムの構築（管理部門、設備等の設置）、本部に管理部門を設置する。
　【財務調整部会】
　　計画書内（達成目標）
　　経営効率化指標（ii）物品等調達削減
　　経営効率化指標（iii）施設設備費削減
　　1.事務・教学の経営改革効果に係る推進事項について、具体的に進めて行く。
　【人的リソース部会】
　　計画書内（達成目標）
　　経営効率化指標（ i ）人的コスト削減
　　1.各担当者の確定、1/4 基幹教員等の検討、アウトソーシングの検討、インセンティブ支給の検討
　　　各校教職員リスト・関連規程等の集約、部会メンバー一覧表（メーリングリスト）の作成
　【教学システム部会】
　　計画書内（達成目標）
　　独自指標（定量指標 i ）教育成果向上
　　独自指標（定性指標 i ）教育プログラムの充実度 ※学生自己評価
　　1.提供科目（活動含）の候補確定（一覧作成）、インターカレッジカリキュラム基幹科目の設定
　　2.各校での履修モデル案の作成、3校共通事項、用語の統一
　【学生支援部会】
　　計画書内（達成目標）
　　経営効率化指標（iv）費用対効果
　　1.指導支援について、実施内容、各学内体制との関係ほか（共通事項）
　　2.R6年度中に予告リーフレット作成（学生募集向け）、リーフレット作成（6月からの募集を目標）
　　3.各校での入試案の作成（共通事項、PF 共通募集要項）、財務調整部会と協同、共同学生募集の実施
　　4.アンケート調査の実施分析について
　【地域連携部会】
　　計画書内（達成目標）
　　独自指標（定量指標 ii ）連携事業
　　独自指標（定性指標 i ）教育プログラムの充実度※外部評価
　　独自指標（定性指標 ii ）地域社会への貢献度（教学システム部会）
　　1.予告リーフレット作成（ステークホルダー向け）※、リーフレット作成の着手ほか
　　2.ステークホルダー（産学官民金言）連携の推進について（先は地方創生 2.0 への接続）
　　3. ステークホルダー向け募集について
　【事務局】（推進委員会）
　　1. プレスリリース（キックオフ）＆予告リーフレット※（至急要件につき事後報告）
　　2.個人情報の取り扱いについて原案作成
　　3.各校の申請書類等について（共創プラットフォームに係る内容の統一性）
4.その他
　4-① HP 等の作成について
　4-② 短期大学コンソーシアム九州その他との関係性について
　・短大コンソ事業
　・QSP事業
　・大学コンソ佐賀事業

九州短期大学共創プラットフォーム

令和6年度

自己点検評価報告書

令和7年3月31日

統括委員会

西九州大学短期大学部	学長 福元 裕二
長崎短期大学	学長 安部 恵美子
長崎女子短期大学	学長 橋本 剛

推進委員会

西九州大学短期大学部	平田 孝治
西九州大学（西九州大学・短期大学部副学長）	上野 景三
長崎短期大学	中野 明人
長崎短期大学	岡崎 寛
長崎女子短期大学	橋本 剛
学びと成長しくみデザイン研究所	桑木康宏

財務調整部会・人的リソース部会・教学システム部会・
学生支援部会・地域連携部会・事務局

西九州大学短期大学部

平田孝治・武富和美・春原淑雄・竹森裕高・牛丸和人・
田中知恵・川邊浩史・西岡征子・大石妙子・上田幸弘

長崎短期大学

中野明人・岡崎寛・小林友美子・西田江里・新井浩之・
小役丸響・小玉智章・中村明夫・牟田美信・李載宇・
清水英紀・田栗智之・岸川綾

長崎女子短期大学

橋本剛・髙井達司・林田翔太郎・古賀克彦・森口和美・
船勢肇

学びと成長しくみデザイン研究所

桑木康宏